# 平和記念だより 98

2026年1月

◆ 編集･発行 /高松市市民局人権･男女共同参画推進課　高松市平和記念館
◆ 連　絡　先 /〒760-0068 高松市松島町一丁目 15 番 1 号　たかまつミライエ 5 階
TEL(087)833-2211　FAX(087)833-2244

## 高松市戦争遺品等収蔵品巡回展【中川文化センター】

遺品等収蔵品コーナー

令和７年１１月 16 日(日)、17 日(月)、中川文化センターで「戦争遺品等収蔵品巡回展」を開催しました。戦争遺品や戦争に関する資料や写真パネル等、計１７点を展示しました。ご来場の方からは、「戦争が激しくなっていくにつれ、衣食をがまんする生活が続いたことを忘れてはいけない。」「空襲後の高松を市民みんなが頑張って復活させていったことを思い出す。だからこの平和を大切にしたい。」といったご意見やご感想をいただきました。中川文化センターの文化祭開催中ということもあり、大勢の方にご来場いただきました。ありがとうございました。

戦後の復興コーナー

戦時中のくらし展示コーナー

### 戦争遺品等収蔵品巡回展 参加者アンケートより　ご協力ありがとうございます！

小学校の社会科で、子どもたちに戦争について教えています。目をそらしたくなる過去だからこそ、今の子どもたちには知る必要があると思います。今の平和になった日本の歴史を教えていく責任が大人の私たちにあると思っています。

学校でも平和について学習することはありましたが、実際の焼夷弾や写真を見て平和への意識が高まりました。今、世界で戦争や紛争などの争いが絶えない中、自分に何ができるか考え、行動に移して行きたいと思いました。

# 平和学習(こども未来館学習)

当館が実施している平和学習では、平和記念館の展示物や資料、映像等を使って「高松空襲」や「戦時下のくらし」を学びます。「高松空襲」については、主に映像学習室において空襲のアニメを視聴したり、80 年前に空襲で焦土と化した高松市街の写真を見たりして戦争の悲惨さを実感してもらいます。また、「戦時下のくらし」については、『おばあちゃん、お話して』コーナーにおいて戦時中の配給制や衣料切符の映像を見ながら、当時の深刻な物資不足を知ることができます。さらに、当時の国民学校（小学校）の写真を展示し、運動場をイモ畑にしたことや、体錬科での剣道(男子)や薙刀(女子)の訓練を知ることで、当時の国民学校少国民(児童)も戦争に巻き込まれていったことの理解を深める内容になっています。

平和学習には、４月から現在(１２月末)までに、合わせて 52 校(約 3,700 人)の皆さんが参加しました。その内、高松市外から小学校 5 校、中学校 1 校が平和学習を利用していただきました。今回は実施後にいただいたお便りの中から、感想や意見の一部を抜粋して紹介します。

## 平和学習実施校の皆さんからのお便り(抜粋)

平和学習の中で、心に残ったのは戦争のこわさです。たくさんの人がなくなったり、子どもがお母さんたちとはぐれて焼け死んだりしたことがとてもこわかったです。学習する前よりも戦争のこわさを知ることができました。

平和学習の後、平和のありがたさが一番心に残りました。今は平和で、食べたいものが食べられますが、戦争中は、イモばかりの日もあって、がまんする日が続いて大変だったことが分かりました。

高松空しゅうのこわさが分かりました。80 年前に高松市であった空しゅうで、多くの死者が出たり、自分の家が焼けたりして、どんなにつらかったでしょう。空しゅうの動画が見られて、とても勉強になりました。

戦争中は、いいことがなく、苦しいことが多かったなと思いました。戦争中は、いろんな物が不足して、お米が配給になったことや、服もきっぷをわたして買うようになり、大変だったことが分かりました。

証言 高松空襲

# あの日わたしは

証言⑮　島田清隆さん

八幡神社を北に下りたすぐの所に住んでいた。その夜は一度、警報が発令されて起きていた。突然、街の中心部でパーツと炎が上がった。妹二人と母と一緒に「とにかく逃げよう」と布団二枚を持って西の方に向かった。八幡さんを下りた西の方は、田植えが終わった田んぼで、その中に飛び込んだ。そこで妹と布団をかぶってじっとしていた。八幡さん寄りの小さな家に焼夷弾が落ち、その瞬間燃え上がった。夜が明けて周りを見ると、六角形の焼夷弾が田んぼの中にプスプス突き刺さっていた。自宅は全焼しており、何もなかった。下笠居村の親類宅に疎開することになった。

**証言者プロフィール**

- ■当時　中学校１年生
- ■住所　宮脇町
- ■家族　７人
  - 父母
  - 子ども５人
- ■家業　不明

「あの日わたしは　高松空襲～当時を伝える証言者の声～」(高松空襲を子どもたちに伝える会)証言映像より編集

## 平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

**１月の上映**　**「チョッちゃん物語」**（80 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝日、午後１時～

解　説▶　迫りくる戦争の影におびえながらも幸せに暮らしていた「チョッちゃん」一家。長男の病死、夫の召集など、悲しい出来事や苦難が続く中でも、家族のきずなを大切にして、明るくたくましく生き抜く。黒柳朝さん(黒柳徹子さんの母)の自叙伝をもとに描いた長編アニメーション。

**２月の上映**　**「キクちゃんとオオカミ (野坂昭如戦争童話集)」**（45 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝日、午後１時～

解　説▶　昭和 20 年、満州。敗戦とともに、日本人たちの退却が始まり、その道のりで幼いキクちゃんが病に侵される。置き去りにされたキクちゃんを救ったのは一匹のオオカミだった。野坂昭如さん原作の戦争アニメーション。

**３月の上映**　**「ガラスのうさぎ」**（83 分）

日　時▶　開館日の土・日・祝日、午後１時～

解　説▶　母と二人の妹の命を奪った東京大空襲。焼け跡から猛火により変形した「ガラスのうさぎ」を掘り出した敏子は、死んでしまった家族のためにも、平和な世界の実現を願いながら、たくましく生きていくことを決意する。多くの人に読み継がれるベストセラーが原作の長編アニメーション映画。

※　都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

収蔵品紹介 88

## 明治三十七八年従軍記章

寄贈者　　中谷　弥生 様

寄贈者の父方の祖父の遺品。1904(明治37)年から1905(明治38)年にかけて日本とロシアが戦った日露戦争に従軍したことへの功績を表すための記章である。特徴として、表面に菊花紋、軍旗、軍艦旗、桐葉、裏面に月桂樹、戦捷木(ナツメヤシ)、そして中央に「明治三十七八年戦役」と刻まれている。

この日露戦争では、陸上戦で日本軍が旅順、奉天(現在の瀋陽)でロシア軍を破り、海戦もバルチック艦隊に勝利したのを機にアメリカの仲介で日露講和条約「ポーツマス条約」が結ばれた。

表

裏

平和記念館「企画展示コーナー」に展示中

参考：「明治三十七八年従軍記章条例」
国立公文書館デジタルアーカイブスより

戦時用語解説 80

### 金属供出

【読み】きんぞくきょうしゅつ

【分類】戦時中のくらし

金属供出は、日中戦争から太平洋戦争にかけて、戦局の悪化と物資（特に武器の生産に必要な金属資源）の不足を補うために、1941(昭和16)年に公布された「金属類回収令」に基づいて行われたものである。全国各地で、寺の鐘、看板、鉄製ポストなどが回収された。

当館の収蔵品に、玉藻公園の桜の馬場に集められた二宮金次郎や楠木正成など約60体の銅像が集められている貴重な写真がある。1944(昭和19)年には、屋島登山鉄道㈱、八栗登山鉄道㈱が運行していたケーブルカーが不要不急線となって休止し、車両やレールも供出となっている。地域でも日用雑貨や調理器具、鉄くずなどの廃品回収が徹底的に行われた。

参考：「資料が語る戦時下の暮らし」
羽島知之　編著　麻布プロデュース　発行
「第二次世界大戦末期の民鉄休廃止と資材転用」
三木理史　著　奈良大地理 vol28

## 編集メモ

１１月に中川文化センターで開催した「戦争遺品等収蔵品巡回展」には、大勢の家族連れの皆さんにご来場いただきました。来場者の方の「グラマンの空襲のことは聞いたことがある」とか「戦時中のくらしは、がまんばかりだった」という声を何度か耳にしました。戦後８０年が経ち、平和で豊かな世の中を過ごしていると、それが当り前になってきています。過去にあった悲しい史実を知ることで、平和は勝手にやって来るのではなく、さらに未来も平和を続かせていこうという強い気持ちが大切であることを伝えていきます。

たかまつミライエ

**高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）**

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時30分まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始12/29~1/3
入 館 料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QRコード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回99号発行は、2026年４月です。